

日医ニュース

No. 1334
2017. 4. 5

発行所 **日本医師会**
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代) / FAX 03-3946-6295
E-mail wwwinfo@po.med.or.jp
http://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)

アピックス

- 「警察活動に協力する医師の部会(仮称)」連絡協議会・学術大会 …… 2面
- JMA-JDNの活動について …… 5面
- 都道府県医師会だより …… 6面

『かかりつけ医向け 認知症高齢者の運転免許更新に関する 診断書作成の手引き』の活用を求める

改正道路交通法が3月12日に施行されたことに伴い、免許更新時に受けた認知機能検査によって、認知症の疑いのある「第1分類」と判定された75歳以上の高齢者は全て、臨時適性検査または医師の診断書の提出が必要になった。

全国では、「第1分類」に判定される高齢者が年間5万人を超すことが予想されることから、日医ではかかりつけ医による診断書の作成の参考となるよう、栗田主一東京都健康長寿医療センター自立促進と介護予防研究チーム研究部長、篠原彰岡県医師会長、瀬戸裕司福岡県医師会専務理事、渡辺憲鳥取県医師会副会

長らをメンバーとする作業委員会を設置して、今回の『手引き』を取りまとめ、3月1日開催の都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会(本紙第1333号参照)で公表。その後、全文を日医ホームページに掲載している。

『手引き』は、全4章で構成、第1章では、かかりつけ医が診断書作成の依頼を受けた場合の対応について、フローチャートなどを提示(図)。第2章では、都道府県の公安委員会に提出する診断書を作成する上での留意点、改正道路交通法のポイントに加え、警察庁より提示されたモデル診断書や診断書記載ガイドラ

で、同常任理事は、診察・検査費用に関しては、「認知症の疑いのある方の受診であり、厚労省とも協議を行い、保険請求できることになっている」としたが、診断書の発行に係る費用については保険請求できないとした。

また、第3章では、実際に診断書を作成する場合の参考となるよう、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、軽度認知障害の3つのモデル事例を取り上げ、記載例を示している他、第4章では認知症と診断された高齢者が、運転免許の取消しや停止などの行政処分を受けた場合の、かかりつけ医に求められる対応についてまとめている。

また、会見に同席した松原謙二副会長は、「かかりつけ医が、本人、家族とよく話し合うことで免許証を自主返納してもらおうという方法もある。車がなければ生活できない地域もあり、免許を失った人を支援していくことも必要であるが、その役割を担うのも、かかりつけ医であると考えている」として、協力を求めた。

『手引き』の内容を説明した鈴木常任理事は、「適切な判断をしていけば、通常刑事責任を問われることはないことを警察庁と確認している」と説明した。



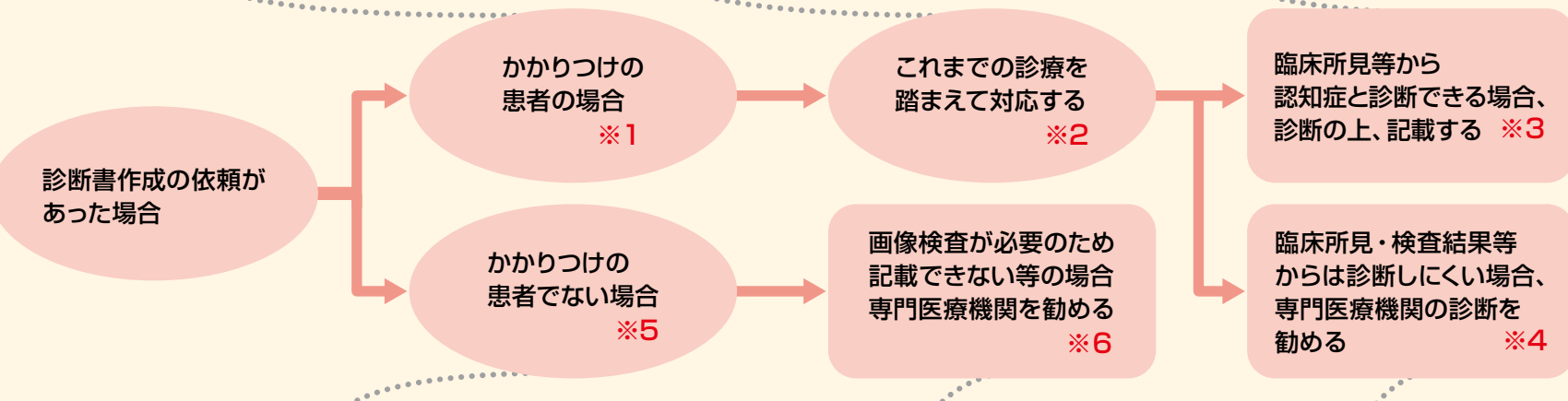
鈴木邦彦常任理事は3月8日、記者会見を行い、日医がこのほど作成した『かかりつけ医向け認知症高齢者の運転免許更新に関する診断書作成の手引き』(以下、『手引き』)の内容について説明。今後、かかりつけ医の先生方が、診断書の作成に関わることが多くなることが予想されるとし、「その際にはぜひ、この『手引き』を活用して欲しい」と呼び掛けた。

検査費用に関しては、「認知症の疑いのある方の受診であり、厚労省とも協議を行い、保険請求できることになっている」としたが、診断書の発行に係る費用については保険請求できないとした。

※1: 少なくとも1年以上定期的に診察を行っており、患者の心身の状態、生活状況を、可能であれば家族からの情報も含め、よく把握できている患者。また、**認知機能の障害について、患者自身にもよく説明し、理解を求めることが重要である。**(⇒※5②参照)

※2: DATのように、徐々に進行する認知機能の低下が、日常の継続的な診察で確認される場合、臨床所見とともに受診時の**認知機能検査(HDS-R、MMSE等)**の点数を総合して診断を行う。患者が承諾すれば、他の医療機関に保険診療として画像検査を依頼し、その所見を加えてもよい。

※3: 認知症としての診断を行う場合、患者に検査結果が良くないことを伝え、診断書の提出によって、公安委員会の審査で免許証の更新が認められない可能性が高いことを説明する。その際、患者から免許証の更新を断念する旨の申し出があった場合、診断書を作成しないで、運転免許更新の手続きの取り下げを指導するの一法である。境界域の患者をMCIと診断することも可能である。この場合、免許証の更新は認められるが、半年後に再検査が求められる。



※5: ①全くの初診、または、極めて不定期の受診で、病状、生活状況の把握がほとんどできていないケースについても、本人及び家族が診察に対して協力的で、十分な診察を行うことができれば、**HDS-R、MMSE等**を実施の上で、家族等から日頃の生活状況を確認の上、総合的に診断を行ってもよい。
②一方、認知症が強く疑われるも、認知機能低下を強固に否認する、または、認知症ではない旨の診断書発行を強く求めるケースについては、極めて慎重な対応が求められる。これらのケースにおいては、診断書作成に係る診察、検査を保険診療で行うこと自体が適切でない場合もある。この場合、専門医療機関の受診方法につき警察の運転免許担当部局に相談する。
また、患者の求めに応じて、**医学的根拠なしに、認知症ではない旨の診断書を作成することは厳に慎まなければならない。**

※6: 1回の診察のみで、しかも普段の生活状況とその障害の有無、更にこれらの継続的推移について、家族等からの情報が全く得られないケースにおいては、**専門医療機関で診断を受けることを勧める**。紹介受診に同意が得られない場合、専門医療機関の受診方法につき警察の運転免許担当部局に相談する。
臨床所見、認知機能検査、家族等からの情報を総合しても、診断が困難な場合も同様である。

※4: 臨床所見、家族からの本人の生活状況の情報を総合しても認知症とは判断しにくい、**HDS-R、MMSE等の点数が著しく低いケース、また、これらの点数が高いが、人格変化、行動の障害が目立つ、幻覚妄想症状がみられる、躁状態またはうつ状態を伴っている、一過性の意識障害のエピソードがみられる等のケースは、専門医療機関で診断を受けることを勧める**。
紹介受診に同意が得られない場合、専門医療機関の受診方法につき警察の運転免許担当部局に相談する。

図 かかりつけ医による診断書作成フローチャート

緑色部分は診断・医学的判断、青色部分は患者への対応についての留意点

平成28年度都道府県医師会 「警察活動に協力する医師の部会（仮称）」連絡協議会・学術大会

警察活動に協力する

医師の全国組織化に向けて活発に協議



松本純 常任理事の司会で開会。冒頭のあいさつで横倉義武会長（今村聡副会長長代読）は、警察活動に協力する業務のうち、次に起こり得る大災害に際しての検案体制の構築を最優先に対処すべき重点課題と位置づけ、検討を行っていることなどを報告。「本日は、我々に残された時間はいくらも残されていないとの認識の下に、建設的な議論をお願いしたい」と述べた。

また、監察医による死因究明については、①医師の判断で、解剖・検査の実施を決定できる②検査・解剖・検査の結果を一元的に集約・活用できる③遺族対応の窓口があり、詳しい結果説明を行うことができる④個人の尊厳、公衆衛生の他、犯罪死の見逃し防止に貢献——などの優れた点を挙げ、その意義を強調した。

結びとして、中澤参事官は、「どのような支援が必要なのか、国が検討できるようにするためにも、ぜひ、協議会を設置し、地方の課題を国に示して欲しい」と呼び掛けた。

中西章警察庁刑事局捜査第一課検視指導室長は、死因・身元調査法の規定に基づき行われている警察における死体取り扱いの流れを説明した。他、①日本の死亡者が増えている中で、警察の死体取り扱い件数は微減となっている②死因・身元調査法第5条に基づく検査、特に、薬・毒物検査が増加傾向にある——ことなどを報告。「法が施行されてから3年余りが経過するが、その運用の中でさまざまな問題点も

指摘されており、必要に対応を行ってほしい」とした。

小林博警察活動等への協力業務検討委員会委員長（岐阜県医師会会長）は、本年2月に都道府県医師会を対象として実施した「警察活動に協力する医師の部会（仮称）」の設置状況等に関するアンケート調査の結果（速報値）について説明。「今回の調査でも、検査費用など全国的に統一されていないことが明らかとなり、全国組織化にはかなりの時間を要すると思われるが、引き続きの協力をお願いしたい」と述べた。

また、補足説明を行った松本（純）常任理事は、集計結果がまとまり次第、都道府県医師会宛てに送付する意向を示した。他、現在仮称となっている部会の名称については、「警察協力医会」を軸に執行部内で検討し、早期に決定したい」とす

るとともに、「研修会の開催に前向きな医師会に対しては、個別に相談するので協力願いたい」とした。

引き続き、若手・長崎両県医師会から事前に寄

せられた要望・質問に対して、協議を行った。

大規模災害時の多数死体検案について、県レベルを超えた広域の協定、全国規模での机上訓練を行うべきとの岩手県医師会からの提案に対して、松本（純）常任理事は、「警察活動等への協力業務検討委員会では、大規模災害時の多数死体検案体制の構築について最優先

で検討しており、各ブロックの代表の委員の他、内閣府、厚生労働省、警察庁、海上保安庁にもオブザーバーとして参加してもらっていることを説明。平成29年度に向けて、具体的な計画を立案していきたいとした。

一方、長崎県医師会からのJMATに検死チームを同行させることに対する見解を求める質問には、松本（純）常任理事が、現時点においては、両者は別々に組織することとが適当であるとの考えを明示。「医師会の組織として派遣されることが

向井教授は、死因究明を体系的に規定した「死因・身元調査法」「死因究明等推進法」について、警察に公衆衛生の向上を義務づけたこと等を評価する一方、「費用が地方自治体に委ねられたため、その取り組みに地域格差が見られる」「今回の改革の最重要課題であった、法医学に関する知見を活用して死因究明を行う専門的な機関の全国的な整備が行われていない」など、運用面での懸念があるとした。

また、医師法21条の異状死体届出義務の解釈として、広尾病院事件の最高裁判決を受けて提唱されるようになった「外表異状説」（医師に警察への

いい いりょう
11月1日を
「いい医療の日」に

日医では、11月1日を「いい医療の日」と定め、より良い医療の構築に向けて、国民の皆さんと考える日とすることを提案しています。

日本医師会
Japan Medical Association

大事であると考えており、今後は、検案チームがJMATとして活動した方が活動しやすいかどうかも含めて、検討していきたい」と述べた。

③専門医による死亡診断書のスクリーニング制度を構築する④異状死の判断に関する電話相談窓口を全国的に整備する⑤死亡診断書（死体検案書）に「検視済印」を新設し、印がない診断書を役所は受理しないようにする⑥消防隊員の警察への通報を法制化する⑦専門医同士の連携強化——等を挙げ、早期の実現を求めた。

その後は、一般公募で選ばれた「顔面うっ血とツキノワグマ徴候の違い」最近5年間に於ける当院で実施した外因死のAIに関する検討「縦隔気腫で死亡した男子高校生の一例」「死因診断に際し解剖の必要性を改めて実感した一例」「地域包括ケアシステムの中の警察医の役割」東京都多摩地域の警察医の一考「察」の5題の講演がそれぞれ行われ、大会は終了となった。

「術後出血」「誤診」等は届出の対象から外されるなどの危険性があると指摘。「単に医療界への警察介入を排除するという目先の目的のみで医師法21条の「異状死」の定義を曲解すべきではない」と述べた。

その上で、早急に検討すべき事項として、①医師法21条の「異状死」の定義について、医療関連死とは別角度で省庁横断的な議論を行う②「死亡診断書記入マニュアル（厚労省編）」に「異状死」の定義を改めて明記する

大規模災害時の多数死体検案体制の構築について、県レベルを超えた広域の協定、全国規模での机上訓練を行うべきとの岩手県医師会からの提案に対して、松本（純）常任理事は、「警察活動等への協力業務検討委員会では、大規模災害時の多数死体検案体制の構築について最優先

で検討しており、各ブロックの代表の委員の他、内閣府、厚生労働省、警察庁、海上保安庁にもオブザーバーとして参加してもらっていることを説明。平成29年度に向けて、具体的な計画を立案していきたいとした。

小林博警察活動等への協力業務検討委員会委員長（岐阜県医師会会長）は、本年2月に都道府県医師会を対象として実施した「警察活動に協力する医師の部会（仮称）」の設置状況等に関するアンケート調査の結果（速報値）について説明。「今回の調査でも、検査費用など全国的に統一されていないことが明らかとなり、全国組織化にはかなりの時間を要すると思われるが、引き続きの協力をお願いしたい」と述べた。

また、補足説明を行った松本（純）常任理事は、集計結果がまとまり次第、都道府県医師会宛てに送付する意向を示した。他、現在仮称となっている部会の名称については、「警察協力医会」を軸に執行部内で検討し、早期に決定したい」とするとともに、「研修会の開催に前向きな医師会に対しては、個別に相談するので協力願いたい」とした。

大規模災害時の検案体制の構築などを議論

報告では、まず、中澤貴生内閣府死因究明等施策推進室参事官が、死因究明等推進協議会の設置状況について、平成29年3月末までに24都道府県に設置される予定である

ことを報告。協議会の中では、「読影のできる力量のある医師や検案医のなり手が不足している」「撮影・読影の費用負担が不明確」「特定の医師に警察からの依頼が集中している」などの課題が指摘されていることを紹介した。

また、監察医による死因究明については、①医師の判断で、解剖・検査の実施を決定できる②検査・解剖・検査の結果を一元的に集約・活用できる③遺族対応の窓口があり、詳しい結果説明を行うことができる④個人の尊厳、公衆衛生の他、犯罪死の見逃し防止に貢献——などの優れた点を挙げ、その意義を強調した。

結びとして、中澤参事官は、「どのような支援が必要なのか、国が検討できるようにするためにも、ぜひ、協議会を設置し、地方の課題を国に示して欲しい」と呼び掛けた。

また、補足説明を行った松本（純）常任理事は、集計結果がまとまり次第、都道府県医師会宛てに送付する意向を示した。他、現在仮称となっている部会の名称については、「警察協力医会」を軸に執行部内で検討し、早期に決定したい」とするとともに、「研修会の開催に前向きな医師会に対しては、個別に相談するので協力願いたい」とした。

ご意見募集

日医では、組織強化に向けた広報にも力を入れるべく、広報委員会でその具体的な方策について検討を続けています。

会費の問題等、日医に入会しない理由はさまざまあると思われませんが、日医に入会して頂くためには、どのような広報が必要と思われるか、先生方が日頃感じていることなど、ご意見をお寄せ下さい。

抽選で10名の方に、「妊婦・小児」への投薬情報から「錠剤・カプセル剤」の粉碎可否情報まで、添付文書だけでは得られない、生きた情報が豊富に掲載された医薬品情報集『治療薬ハンドブック2017』（じほう発行）をプレゼントいたします。

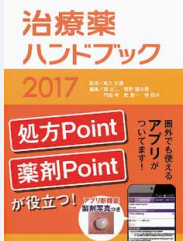
なお、当選者の発表は、書籍の発送をもって代えさせていただきます。

◆応募方法

①住所②氏名③年齢④ご意見（必須）を明記の上、下記宛先まで、はがきまたはメールにて、ご応募下さい〔4月28日（金）消印有効〕。

◆応募・問い合わせ先

日医広報課
〒113-8621 文京区本駒込2-28-16
☎03-3942-6483（直）
✉present@po.med.or.jp



ベトナム保健省調査団が 日医を表敬訪問



レ・クアン・クオンベトナム保健大臣を団長とした調査団一行が3月2日、日医会館を訪れ、医師会組織の意義・役割と生涯教育について説明

療戦略・政策研究局副所長とベトナム保健省政策アドバイザーが同行した。今回の訪日では、日医

を受けた。調査団は、2020年の医師・看護師国家試験導入に向けてオーストラリア等海外での視察を実施中であり、メンバーは、ベトナム国会社会問題委員会局長（国会議員）、保健省の科学・技術・訓練局副局長、法制局局長、国際協力局副局長、医師会常任理事が「日本医師会の役割、羽鳥常任理事が「日本医師会の生涯教育について」と題して、それぞれ説明を行った。

今村副会長は、日医について、日本で唯一の医師個人資格で加入する学術団体・専門職団体であり、国民に信頼される医療の確立を目指して活動しているとしてその概要を説明。郡市区医師会と市区町村、都道府県医師会と都道府県、日医と

「地域包括診療加算の要件の一つとなったこと」「認定講習会の中で一定要件を満たしたものは、専門医の認定・更新に必要な単位も取得可能となったこと」等を挙げ、「講習会出席・単位管理データベース」を用いた「全国医師会研修管理システム」についても紹介した。講義の後には質疑応答が行われ、レ・クアン・クオン副大臣は、「100%民間の団体として活動している日医のような組織がベトナムにあれば、我々行政はどんなにか心強いことだろうか」と感想を述べた上で、民間団体でありながら社会に影響を与える団体になるには法律や政府からの支援といった公的な基盤があるのかを尋ねた。

これに対して、今村副会長は、「日本の医師は、予防接種など本来行政が行うべきことを受託したり、学校医の役割を果たしたりしており、地域の中でなくてはならない存在として認められている。それらの地域の医師の活動を標準化し質を保つための研修会等は地域の医師会が実施しており、その存在は大きい」と説明。「こうした取り組みに対し、日医は、都道府県・郡市区等医師会へ国からの通知等の情報を提供するなどの役割を担っており、社会における公益性の高さから公益社団法人として認められている。また、国会議員の立法活動への支援を行っていることも存在感の大きさにつながっている」と回答した。

他にも、「卒後研修や専門研修は誰が管理するのか」「日本医学会と日医との関係は」など、活発な意見交換が行われた。最後に、レ・クアン・クオン副大臣から今村副会長へ、感謝の意を表して記念の盾が贈られた。

日医 定例記者会見



3月15日

麻しん・風しんの 予防接種について



金渡敏常任理事は、麻しん・風しんの予防接種の現状について報告した。

日医では、麻しん風しん混合ワクチン（以下、MRワクチン）の不足により、4月以降、定期接

種対象者が接種を受けられないままに対象年齢を過ぎてしまうことがないよう、厚生労働省及びワクチン製造販売業者に対して更なる対応を求めたが（本紙第1329号既報）、その後も、会内の予防接種・感染症危機管理対策委員会や都道府県医師会等から、4月以降の特例的な措置や余裕を持ったワクチンの供給等を国に求めるべきとの声が上がっていた。

同常任理事は、厚生労働省から、随時、MRワクチンの供給量の報告や、不足の声が聞かれる地域に対する個別の対応をしているとの報告を受けてきたことを説明。日医では、今年度II期の対象者で接種できなかった者に対して、4月以降でも定期接種として認めるなどの特例措置を求めたが、厚生省からは、現時点における本年度の定期接種の接種率は昨年度とほぼ同じであることから、4月以降の特例措置をとる予定はないとの報告を受けたことを明らかにした。

その上で、同常任理事は、「今回、特例措置に至らなかったことは大変遺憾である」とするとともに、「本人が希望したにもかかわらず、定期接種として接種できないようなことがあれば、これは見過ごすことのできない大きな問題である。今回のような突発的な事態に対しては、ワクチン不足による接種率低下の判定が数カ月遅れることを踏まえた対応が必要ではないか」と指摘。また、今後については、「このような事態に陥らぬよう、ワクチンの供給量に常に余裕を持たせることなどについて、引き続き、国に強く働き掛けていく」との考えを示した。

平成28年度臨床検査精度管理調査報告会

臨床検査精度の更なる向上を目指して



本調査を更に進化させていきたい」と述べ、臨床検査の更なる向上に期待を寄せた。

引き続き、3223施設が参加して行われた第50回臨床検査精度管理調査の報告に移り、

(1) 臨床化学一般検査(細菅茂実同委員会委員)、(3) 臨床化学一般検査・糖代謝・尿酸検査(菊池春人同委員会委員)、(4) 酵素検査(前川真人同委員会副委員長)、(5) 脂質検査(高木康同委員会委員長)、(6) 腫瘍マーカー(山田俊幸同委員会委員)、(7) 甲状腺マーカー・感染症マーカー・リウマトイド因子(メ谷直人同委員会委員)、(8) 血液学的検査(小池由佳子同委員会委員)、(9) 測定委員会委員、(9) 測定装置利用の動向(金村茂

同委員会委員) — についての講評が行われた。高木委員長は総括の中で、インターネット回答について、「昨年の82・8%(2650施設)から85・5%(2757施設)に増加したが、インターネット回答では、試薬・機器とメーカーがマッチングしていないと警告が出るので、3%程度増えたことで誤登録が少し減った」と説明。「製造販売元」ではなく「販売元を誤記入するなど、誤登録があった施設には、文書で注意を促しているとした。

共用(共通)基準範囲が提唱されていることについては、適切な精度管理を行っている施設のみが対応できるデータであるとして、施設間の互換性のあるデータづくりを求めた。

その後の総合討論では、参加者からの個別具体的な質問に対して、各委員が回答。CT検査等における造影剤投与の適否判定のため、クレアチニン測定の迅速性を求められることが多く、正確性がおさなりにされているとの指摘に対し高木委員長は、ドライケミスト

リ法による簡易測定では結果のばらつきが見られることを認めつつ、「人の血清を用いた酵素法との相関が検討されていれば、ドライケミストリ法

でも問題ない」との見方を示した。また、同委員長は、都道府県の規模においては、個人の生の血清を用いた同一試料での検査が可能であるとし、「メーカー間の差がない成績が期待でき、日医の大規模調査と小中

規模の調査を組み合わせたより良い精度管理調査となる」との私見を述べた。

最後に羽鳥常任理事が、「項目の見直しや共用基準範囲の更なる拡大など、頂いた宿題を生かしながら、今後も調査を行っていきたく」と結び、報告会は盛会裏に終了となった。参加者は668名。

医療問題 Q&A

今号では、多くの会員の先生方から寄せられた質問の中から、以下の質問に対する回答を掲載する。

Q 「介護医療院」について教えてください。

で審議が行われています。「介護医療院」には、長期療養が必要な要介護者に医療・介護を一体的に提供するため、「日常的な医学管理」「看取り・ターミナル」などの機能と、「生活施設」としての機能を兼ね備えた施設となることが期待されています。

そこで、平成27年に「療養病床の在り方等に関する検討会」が、平成28年には「療養病床の在り方等に関する特別部会」が厚生労働省に設置され、同年12月には新たな施設類型に関する基本設計が取りまとめられ、今回の改正案にもこの方針が盛り込まれています。

特別部会における議論の中では、「新たな施設類型を設定するに当たっては地域の中で、その医療機関が担っている重篤者の受け皿や、看取りの場としての機能を含めた



鈴木邦彦常任理事

A 療院」とは、平成29年度末に経過措置が終了し、廃止期限を迎える介護療養病床(介護療養型医療施設)と25対1医療療養病床の移行先となる「新たな施設類型」の名称のことです。

今国会に提出された介護保険法等改正案に盛り込まれており、現在、国会

医療・介護サービスが引き続き提供され、地域住民の療養の場を確保する観点から何よりも重要である」とするとともに、「低所得者への配慮や、1病棟のみの小規模病院、有床診療所などへの配慮が必要不可欠だ」と主張してきました。

また、病院から施設となる可能性がある名称についても、病院が施設か医師や職員モチベーションにも関わることから柔軟に対応することを求め、改正案では病院や診療所が新たな施設類型に転換した場合には、転換前の病院・診療所の名称を引き続き使用できるように示されています。

更に、廃止に伴う経過措置期間に関しては、「平成30年4月から3年間の

第7期介護保険事業計画での転換実績を検証した上で、第8期事業計画でも必要な経過措置を設定すべきであり、新類型案への転換を促すためにも、第7期と第8期の事業計画に合わせた2段階、計6年間の経過措置を設けるべきである」と主張し、今回の改正案では具体的な延長期間について「6年程度」と明記されました。

新類型の施設要件や報酬などについては、今後、「社会保障審議会介護給付費分科会」で議論されることとなりますが、国民や医療機関にとって、魅力ある移行先として、できるだけ使いやすいものになるよう、引き続き努めていきたいと思えます。

健康ぷらざに関するお知らせ

待合室等に掲示してご活用頂けるよう、本紙に月2回同梱している「健康ぷらざ」は、本年4月より、奇数月につきましては月1回(5日号のみ)となりますので、あらかじめご承知おき下さい。

日医広報課

日本医師会
 総務課(人事・労務) 03-3942-6493・総務課 03-3942-6481/03-3942-6477・施設課 03-3942-7027・経理課 03-3942-6486・広報課 03-3942-6483・情報システム課 03-3942-6490
 介護保険課 03-3942-6491・年金・税制課 03-3942-6487・生涯教育課 03-3942-6139・編集企画室 03-3942-6488・日本医学会 03-3942-6140・情報サービス課 03-3942-6482・医学図書館 03-3942-6489

日本医師会 ジュニアドクターズネットワークの 活動について

三島千明 JMA-JDN 代表 / WMA-JDN 国際役員



JMA-JDN 主要メンバー

会の下に若手医師・医学生分科委員会が設置され、JMA-JDN が立ち上がりました。今年度は、運営メンバーとして全国から約20名の若手医師が中心となり活動しています。JDNの活動を配信するメールマガジンは、全国各リンクリストには、全国各地から約160名の若手医師が登録しています。

① 国際活動

WMAやアジア大洋州医師会連合(CMAAO)の国際会議に日医からの派遣で参加しています。WMAの会合では年2回、世界の若手医師が集まるJDNミーティングが開催されており、JMA-JDNメンバーも参加しています。

最近では、2016年10月にWMA台湾総会に参加しました。その際にはAsia and Pacific JDNの関心も高く、海外の医療制度・教育等を学ぶだけでなく、日本の医療の現状、特に高齢化社会における課題や日本の取り組みについては、海外の若手医師らから、少ずつではありましたが、日医のサポートの下、活動を継続していきな活動を行っています。

Meetingが行われ、台湾医師会のご協力の下、地域の医療施設の見学も行いました。JDNミーティングでは、世界の若手医師とお互いの国の医療課題、若手医師を取り巻く課題について、経験の共有と議論(提言)を行っています。

海外の医療制度・教育等を学ぶだけでなく、日本の医療の現状、特に高齢化社会における課題や日本の取り組みについては、海外の若手医師らから、少ずつではありましたが、日医のサポートの下、活動を継続していきな活動を行っています。

WMAやアジア大洋州医師会連合(CMAAO)の国際会議に日医からの派遣で参加しています。WMAの会合では年2回、世界の若手医師が集まるJDNミーティングが開催されており、JMA-JDNメンバーも参加しています。

最近では、2016年10月にWMA台湾総会に参加しました。その際にはAsia and Pacific JDNの関心も高く、海外の医療制度・教育等を学ぶだけでなく、日本の医療の現状、特に高齢化社会における課題や日本の取り組みについては、海外の若手医師らから、少ずつではありましたが、日医のサポートの下、活動を継続していきな活動を行っています。

WMAやアジア大洋州医師会連合(CMAAO)の国際会議に日医からの派遣で参加しています。WMAの会合では年2回、世界の若手医師が集まるJDNミーティングが開催されており、JMA-JDNメンバーも参加しています。

最近では、2016年10月にWMA台湾総会に参加しました。その際にはAsia and Pacific JDNの関心も高く、海外の医療制度・教育等を学ぶだけでなく、日本の医療の現状、特に高齢化社会における課題や日本の取り組みについては、海外の若手医師らから、少ずつではありましたが、日医のサポートの下、活動を継続していきな活動を行っています。

WMAやアジア大洋州医師会連合(CMAAO)の国際会議に日医からの派遣で参加しています。WMAの会合では年2回、世界の若手医師が集まるJDNミーティングが開催されており、JMA-JDNメンバーも参加しています。

最近では、2016年10月にWMA台湾総会に参加しました。その際にはAsia and Pacific JDNの関心も高く、海外の医療制度・教育等を学ぶだけでなく、日本の医療の現状、特に高齢化社会における課題や日本の取り組みについては、海外の若手医師らから、少ずつではありましたが、日医のサポートの下、活動を継続していきな活動を行っています。

WMAやアジア大洋州医師会連合(CMAAO)の国際会議に日医からの派遣で参加しています。WMAの会合では年2回、世界の若手医師が集まるJDNミーティングが開催されており、JMA-JDNメンバーも参加しています。

「日医ニュース」をご覧の皆さまに、日本医師会ジュニアドクターズネットワーク(以下、JMA-JDN)の活動について、ご紹介させて頂きます。



台湾では地域の病院も視察

台湾では地域の病院も視察。また、日医のJDNと地域

国際保健委員会の開催時には、合同委員会としてJMA-JDNメンバーも参加し、活動報告、情報共有、意見交換を行い、委員やオブザーバーの先生方からアドバイスを頂いています。

WMA台湾総会では、横倉義武会長がWMA次期会長に選出されました。WMAやアジア大洋州医師会連合(CMAAO)の国際会議に日医からの派遣で参加しています。

WMAの会合では年2回、世界の若手医師が集まるJDNミーティングが開催されており、JMA-JDNメンバーも参加しています。

最近では、2016年10月にWMA台湾総会に参加しました。その際にはAsia and Pacific JDNの関心も高く、海外の医療制度・教育等を学ぶだけでなく、日本の医療の現状、特に高齢化社会における課題や日本の取り組みについては、海外の若手医師らから、少ずつではありましたが、日医のサポートの下、活動を継続していきな活動を行っています。

WMAやアジア大洋州医師会連合(CMAAO)の国際会議に日医からの派遣で参加しています。WMAの会合では年2回、世界の若手医師が集まるJDNミーティングが開催されており、JMA-JDNメンバーも参加しています。

最近では、2016年10月にWMA台湾総会に参加しました。その際にはAsia and Pacific JDNの関心も高く、海外の医療制度・教育等を学ぶだけでなく、日本の医療の現状、特に高齢化社会における課題や日本の取り組みについては、海外の若手医師らから、少ずつではありましたが、日医のサポートの下、活動を継続していきな活動を行っています。

WMAやアジア大洋州医師会連合(CMAAO)の国際会議に日医からの派遣で参加しています。WMAの会合では年2回、世界の若手医師が集まるJDNミーティングが開催されており、JMA-JDNメンバーも参加しています。

最近では、2016年10月にWMA台湾総会に参加しました。その際にはAsia and Pacific JDNの関心も高く、海外の医療制度・教育等を学ぶだけでなく、日本の医療の現状、特に高齢化社会における課題や日本の取り組みについては、海外の若手医師らから、少ずつではありましたが、日医のサポートの下、活動を継続していきな活動を行っています。

WMAやアジア大洋州医師会連合(CMAAO)の国際会議に日医からの派遣で参加しています。WMAの会合では年2回、世界の若手医師が集まるJDNミーティングが開催されており、JMA-JDNメンバーも参加しています。

最近では、2016年10月にWMA台湾総会に参加しました。その際にはAsia and Pacific JDNの関心も高く、海外の医療制度・教育等を学ぶだけでなく、日本の医療の現状、特に高齢化社会における課題や日本の取り組みについては、海外の若手医師らから、少ずつではありましたが、日医のサポートの下、活動を継続していきな活動を行っています。

WMAやアジア大洋州医師会連合(CMAAO)の国際会議に日医からの派遣で参加しています。WMAの会合では年2回、世界の若手医師が集まるJDNミーティングが開催されており、JMA-JDNメンバーも参加しています。

最近では、2016年10月にWMA台湾総会に参加しました。その際にはAsia and Pacific JDNの関心も高く、海外の医療制度・教育等を学ぶだけでなく、日本の医療の現状、特に高齢化社会における課題や日本の取り組みについては、海外の若手医師らから、少ずつではありましたが、日医のサポートの下、活動を継続していきな活動を行っています。

WMAやアジア大洋州医師会連合(CMAAO)の国際会議に日医からの派遣で参加しています。WMAの会合では年2回、世界の若手医師が集まるJDNミーティングが開催されており、JMA-JDNメンバーも参加しています。

最近では、2016年10月にWMA台湾総会に参加しました。その際にはAsia and Pacific JDNの関心も高く、海外の医療制度・教育等を学ぶだけでなく、日本の医療の現状、特に高齢化社会における課題や日本の取り組みについては、海外の若手医師らから、少ずつではありましたが、日医のサポートの下、活動を継続していきな活動を行っています。

初期研修を終えて専門科に進むと、その他の科や施設の若手医師のつながりが狭まりがちです。そのため、私達は、専門の科を越えて学び合うことを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

内容は、科を越えて医師として学ぶべきテーマを活かし、多くの若手医師が活躍できる環境を創出することを目的に、JMA-JDNによるセミナーを企画しています。

「日医ニュース」をご覧の皆さまに、日本医師会ジュニアドクターズネットワーク(以下、JMA-JDN)の活動について、ご紹介させて頂きます。

「日医ニュース」をご覧の皆さまに、日本医師会ジュニアドクターズネットワーク(以下、JMA-JDN)の活動について、ご紹介させて頂きます。

「日医ニュース」をご覧の皆さまに、日本医師会ジュニアドクターズネットワーク(以下、JMA-JDN)の活動について、ご紹介させて頂きます。

「日医ニュース」をご覧の皆さまに、日本医師会ジュニアドクターズネットワーク(以下、JMA-JDN)の活動について、ご紹介させて頂きます。

都道府県医師会だより

地域医療連携（しまね医療情報ネットワーク）を活用した感染症デ일리サーベイランスについて

— 島根県医師会 —

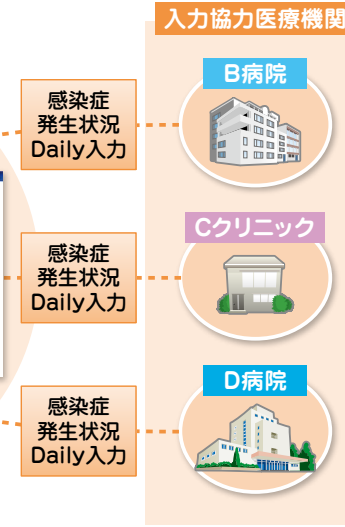
島根県では、ICTによる地域医療連携（通称「まめネット」）を運用している。平成25年1月より全県

の医療機関全てに医療専用のネットワークを構築し、現在84%の病院と46%の医科診療所の他、歯科、薬局、訪問看護、

介護施設、保健所等々たくさんの医療関連施設に参加している。

その中には、ネットワーク基盤のインフラを利用して、例えば、診療予約、HPKIを活用した紹介システム、診療情報共有システム、介護連携システム、健診連携、調剤情報連携等、圏域の医療ニーズに応じた連携アプリケーションを構築・運用している。

管理運営している実働部隊としては、NPO法人しまね医療情報ネットワーク協会があり、理事長、副理事長に県医師会の副会長、常任理事が就任し、密接な連携をとっている。



A診療所

昨日から松江でインフルエンザ注意報が出てたな…

松江地区でインフルエンザが流行ってます。予防を心掛けて下さいね。

図 感染症の発生動向を迅速に把握する「感染症デ일리サーベイランス」の仕組み

今回報告する「感染症デ일리サーベイランス」は、医療専用の安全なネットワーク基盤を活用し、「まめネット」を利用している全ての会員が関

り、既往の「感染症発生動向調査」よりも早く情報を発信し、実用性のある感染症の流行把握と診断、対策に寄与するものになるよう提案されたものである。

回まとめてFAX送信する方法の代わりに「まめネット」の中で入力すれば速やかに報告でき、参加機関で情報を共有することになる。

主に県医師会が中心となっており、月1回の頻度で感染症デ일리サーベイランス運営委員会を開催し、委員の先生方、他の県の医療政策課、薬事衛生課、保健環境科学研究所等、まさに官民一体となっており、現在その運営に当たっている。

また、全ての感染症を対象としており、まめネットのポータル画面に表示されるようになっていく。更に、注意報がある場合は、メールによる報告も併用し、より注意喚起できるように工夫も行っている。

このデ일리サーベイランスの日々の入力に協力している医療機関は、国の事業として実施している「感染症発生動向調査」で行われている週1

行政定点は県内で45あるが、そのうち31医療機関が入力に参加、その他定点医療機関以外に協力医療機関として88医療機関が日々入力に参加し、精度の高いサーベイランスになっている。

電子書籍アプリ「日医Lib」の活用を



電子書籍配信サービス「日医Lib（日本医師会e-Library）」のコンテンツは260を超えました。今後もその充実に努めていきますので、ぜひ、ご登録下さい（登録方法等の詳細は、日医Libポータルサイトまで）。



南から北から

北海道
北海道医報
第1175号より

光陰矢の如し

島田 道朗

午後の外来の最中、看護部長が診察室にやってきて、「先生、お話があるの、夕方5時に医局に伺ってほしいです。うか？」と真顔で言ってきた。「いいけど。また何かあったのかい？ 今でもいいよ、すぐ帰くなるから」と私。「いや、5時にして下さい。それではお願いします」とさささと出て行ってしまった。

さて、嫌々ながらもチャンネルを替えて一階の食堂に連れて行かれ、盛大なお祝いをしてもらった。最後に赤い座布団に座らされ、記念写真を撮り、照れくさいやら恥ずかしいやらで汗だくだった。

増え、脳に書き込まれる情報が減ることで、時間の経過を速く感じるようになると言っている。脳に書き込まれる情報とは、新しい体験の記憶である。

ある心理学者は、年とともに記憶に残るような新しい体験が少なくなり、ルーティンの動作が増え、脳に書き込まれる情報が減ることで、時間の経過を速く感じるようになると言っている。脳に書き込まれる情報とは、新しい体験の記憶である。

不吉な予感がする。経験上、だいたいこういう時は、揉め事が起きたとか、クレームがあったとか、ろくなことがないの

先日、妻が血相を交えて飛んできた。聞けば、小学生になる息子のランドセルの中に石がゴロゴロと入れられているという。どうやらイジメで石を詰められていると思っ

Time flies, just do it. 日が永遠に続くように思えた。今、週末は、まだ

無価値な金も限られていた。これらは骨董的価値など全く無いのだが、当時はお宝と信じて疑わなかった。

また妻は、似たようなジーンズや万年筆など、着るわけでも使うわけでもないのに細々と集めては悦に入っている私に対して、「使わないんだっ

来て、大学の同級生が同じ病院で働いており、本格的な釣りをしていたので、同行して仕掛けの作り方や餌の調達法など教えてもらい、割とスムーズに始められた。

当院にローテーションで来られた若い先生で釣りをしてみたいという方は連れて行くのだが、ほとんどの方が私と同じように釣りにはまってしま

自分の年齢・体力と相談しながら楽しみを続けたいと考えている。

福岡県
筑紫医師会報
第201号より
収集癖
長谷川善之

方5時、看護部長が医局にやってきた。一瞬身構えたが、その手には赤いチャンネルと赤い帽子。アッやられた(絶句)。

先日、妻が血相を交えて飛んできた。聞けば、小学生になる息子のランドセルの中に石がゴロゴロと入れられているという。どうやらイジメで石を詰められていると思っ

Time flies, just do it. 日が永遠に続くように思えた。今、週末は、まだ

無価値な金も限られていた。これらは骨董的価値など全く無いのだが、当時はお宝と信じて疑わなかった。

また妻は、似たようなジーンズや万年筆など、着るわけでも使うわけでもないのに細々と集めては悦に入っている私に対して、「使わないんだっ

来て、大学の同級生が同じ病院で働いており、本格的な釣りをしていたので、同行して仕掛けの作り方や餌の調達法など教えてもらい、割とスムーズに始められた。

当院にローテーションで来られた若い先生で釣りをしてみたいという方は連れて行くのだが、ほとんどの方が私と同じように釣りにはまってしま

自分の年齢・体力と相談しながら楽しみを続けたいと考えている。

と札幌で食事をして簡単に済ませていたし、その日は誕生日だったが、たまたま当直であったので、すっかり忘れていたところの不意打ちをくら

先日、妻が血相を交えて飛んできた。聞けば、小学生になる息子のランドセルの中に石がゴロゴロと入れられているという。どうやらイジメで石を詰められていると思っ

Time flies, just do it. 日が永遠に続くように思えた。今、週末は、まだ

無価値な金も限られていた。これらは骨董的価値など全く無いのだが、当時はお宝と信じて疑わなかった。

また妻は、似たようなジーンズや万年筆など、着るわけでも使うわけでもないのに細々と集めては悦に入っている私に対して、「使わないんだっ

来て、大学の同級生が同じ病院で働いており、本格的な釣りをしていたので、同行して仕掛けの作り方や餌の調達法など教えてもらい、割とスムーズに始められた。

当院にローテーションで来られた若い先生で釣りをしてみたいという方は連れて行くのだが、ほとんどの方が私と同じように釣りにはまってしま

自分の年齢・体力と相談しながら楽しみを続けたいと考えている。

福岡県
筑紫医師会報
第201号より
収集癖
長谷川善之

この分野では、国内でそこそこの知れたコレクターになってしまっ

クッションするのとか言うのと、太古は、男が狩りをして獲物を収集するのが大事な役割だったことに起因する。男性の収集癖はそのDNAが残っているからだと

い釣りの後で、私専用となっているところである。海岸沿いの道から15メートルくらい海に突き出してあり、水深は10メートルくらい。まだ暗い

釣果はというと、薄明るくなるくらいに1時間ほどまずアジが釣れ、運が良ければ30センチメートル台のものも時々釣れる。その時間帯が終わると、たまにだが50センチメートル前後の真鯛が釣れるので、いつもそれを期待して餌がなくなるまで粘っている。

大分県
大分県医師会報
第743号より
私の気分転換
森本 章生

不吉な予感がする。経験上、だいたいこういう時は、揉め事が起きたとか、クレームがあったとか、ろくなことがないの

先日、妻が血相を交えて飛んできた。聞けば、小学生になる息子のランドセルの中に石がゴロゴロと入れられているという。どうやらイジメで石を詰められていると思っ

Time flies, just do it. 日が永遠に続くように思えた。今、週末は、まだ

無価値な金も限られていた。これらは骨董的価値など全く無いのだが、当時はお宝と信じて疑わなかった。

また妻は、似たようなジーンズや万年筆など、着るわけでも使うわけでもないのに細々と集めては悦に入っている私に対して、「使わないんだっ

来て、大学の同級生が同じ病院で働いており、本格的な釣りをしていたので、同行して仕掛けの作り方や餌の調達法など教えてもらい、割とスムーズに始められた。

当院にローテーションで来られた若い先生で釣りをしてみたいという方は連れて行くのだが、ほとんどの方が私と同じように釣りにはまってしま

自分の年齢・体力と相談しながら楽しみを続けたいと考えている。

釣果はというと、薄明るくなるくらいに1時間ほどまずアジが釣れ、運が良ければ30センチメートル台のものも時々釣れる。その時間帯が終わると、たまにだが50センチメートル前後の真鯛が釣れるので、いつもそれを期待して餌がなくなるまで粘っている。

自分の年齢・体力と相談しながら楽しみを続けたいと考えている。

書籍紹介

医師が知るべき留学へのコンパス ただいま留学準備中

田中 栄 監修
大谷 幸一 著



本書は、多忙な臨床業務をこなしながら、留学準備を円滑に進めるための情報を過不足なくまとめた実用書である。

留学先として最も人気が高い国はアメリカであるが、2001年の同時多発テロ以降、事務手続きや必要な書類が増加し、留学しようとする者にとっては大変高いハードルとなっている。

94歳になる「○○」おばあちゃん、耳は少し遠いが今日も元気で軽く杖をつきながら外来診療にやってきました。「○○さん今日は誕生日だね。おめでとう」とカルテを見ながら言うと、「テレビの薬(サプリメント)や健康食品のごとくは飲んでないけど、先生のお薬とオロナミンC、そして私の一番の「馳走(ちしゅう)」「うなぎ」

現在では、インターネットを使えば、さまざまな情報を調べられるが、あまりにも情報が溢れているため、かえって迷ってしまう。

そのような状況の中で迷うことのないよう、本書には留学先の決定や実際

ストレスチェック面接医のための「メンタル産業医」入門

櫻澤博文 著



ストレスチェック制度の導入に伴い、産業医は、労働者のメンタル不調の未然防止、職場環境の改

「○○」おばあちゃんの元気の源

「○○」おばあちゃん、耳は少し遠いが今日も元気で軽く杖をつきながら外来診療にやってきました。「○○さん今日は誕生日だね。おめでとう」とカルテを見ながら言うと、「テレビの薬(サプリメント)や健康食品のごとくは飲んでないけど、先生のお薬とオロナミンC、そして私の一番の「馳走(ちしゅう)」「うなぎ」



「ブラスム」は「Brillious」(おと)、「A」は「Age」(最高のもの)の意味だそう。

「うなぎ」はビタミンAが豊富で、夏の暑気で体力を消耗する時期に食べると元気が出るから、土用の丑の日に「うなぎ」を食べる。これは江戸時代の医師であり発明家の平賀源内が、ある「うなぎ屋」から夏でも食べられるように何か策がないか頼まれたのがないか頼まれて「土用の丑の日は、うなぎの旨」と宣伝コピーを考えて、これが広く世間に定着したそう。

笑顔を見ると、好きなものがあり、食欲旺盛なのが元気の源だなと、つくづく実感した。

私も「うなぎ」は大好きだが、しかし最近では、さまざまな要因で捕獲量や養殖量も少なく、値段は高く、なかなか食べるのができない。私も含めて「うなぎ」大好きな「○○」おばあちゃんが十分食べることができるようになるまで、あらかゆる分野の医師が認知症の

のやり取り、助成金の申請、必要書類の提出、留学生活のセットアップなどについて、留学準備全体の流れが体系的に掲載されている。

序章では、現代の応用倫理学・市民の倫理としての生命倫理学と、医療倫理としての生命倫理の問題点を提示。第1章から第9章まで、生命倫理の原則と理論、さまざまな医療倫理に関する問題、人間の生の始まりから終わりまでの具体的な生命倫理諸問題を解説している。

また、最終章では、先進医療の問題を扱い、現代社会で最も喫緊の課題にいかに関与的立場から取り組むべきかを示している。

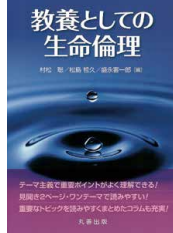
テーマごとに分類されているため、ポイントが理解しやすいだけでなく、重要なトピックに関してはコラムも充実しており、難しいテーマではあるが大変読みやすい一冊となっている。

定価 2808円(税込) 発行 丸善出版

03-5512-3257

教養としての生命倫理

村松 聡 他編



序章では、現代の応用倫理学・市民の倫理としての生命倫理学と、医療倫理としての生命倫理の問題点を提示。第1章から第9章まで、生命倫理の原則と理論、さまざまな医療倫理に関する問題、人間の生の始まりから終わりまでの具体的な生命倫理諸問題を解説している。

また、最終章では、先進医療の問題を扱い、現代社会で最も喫緊の課題にいかに関与的立場から取り組むべきかを示している。

定価 4320円(税込) 発行 日本医事新報社

03-5292-1515

紙とペンでできる認知症診療術

笑顔の生活を支えよう

山口晴保 著



認知症を抱えて困っている患者の数が500万人にのぼる現在、あらゆる分野の医師が認知症の

訃報

■森田浩一郎氏(元日医常任理事)



3月8日、死去、91歳。葬儀及び告別式は近親者のみで執り行われた。

氏は大正14年東京都出身。昭和26年熊本大学

医学部卒業。昭和28年森田医院院長。

東京都医師会理事を経て、昭和59年4月から平成4年3月まで日医常任理事を4期務めた。

昭和57年に監授褒章を、平成13年に勲四等旭日小綬章をそれぞれ受章している。

なお、4月7日に都内において、「お別れの会」が執り行われる予定。

日本医師・従業員国民年金基金 案内

基金掛金等の前納について

国民年金保険料と基金掛金を合算して前納を希望した方の平成29年度分掛金の前納引落日は、5月1日(4月末日が日曜日のため)となり、合算額での引き落としとなる。

ただし、国民年金保険料額が引き上げられたため、平成28年度と引き落とし金額が変わっている。

お問い合わせは、基金事務局(0120-700650)まで。

お知らせ

宿泊割引制度の提携ホテルが新たに拡大



日医では、会員の先生方のために宿泊割引制度を実施していますが、この度、会員提携ホテルとして、新たに「箱根小涌園 天悠」(平成29年4月20日開業予定)が加わりました。

日本医師会ホームページ▶「メンバーズルーム」▶「ホテル予約」のページからご予約頂けますので、どうぞご利用下さい。